



<プロフィール>  
橋本 昌 はしもと まさる

昭和20年東海村に生まれる。石神小学校、茨城中学校、水戸一高を経て東京大学法学部卒業。昭和44年自治省入省。福井県文書学事課長、地方課長、財政課長、山梨県総務部長などの第一線を経験。国土庁防災調整課長、自治省消防庁危険物規制課長、消防課長、自治省公営企業第一課長を歴任。平成5年9月茨城県知事に当選・就任。現在5期目。  
主な役職として、大好きいばらき県民会議会長・日赤茨城県支部長・茨城県済生会会長・茨城県国際交流協会会長・茨城県日中友好協会会長・茨城県観光物産協会会長など。著書には「図解地方自治法（共著）公営企業の管理と経営戦略（共著）がある。趣味はゴルフ、絵画鑑賞。座右の銘「愚直」

## 茨城県知事

# 橋本 昌さん

日本のこれからを

支えていける茨城にしたい

母の後姿を見習わなければならないと常々思いますよ。だからでしょうね、初めて知事選に立候補するときには、父は反対でしたね(笑)。そうした家族のことを心配していたのかも知れません。  
高校卒業後、郷里を離れるとき、どんな思いが去来したのですか。  
1年浪人して、東大をめざすと決めて、東京へ出たものですから、家を離れることは淋しかったですけど、なかなか哀愁に浸っている余裕がなく、とにかく、そういう機会を与えられたのだから、必ず、合格しなければならぬ、頑張りぬかなくてはいいけない。そういう決断のときでした。  
今から振り返ると、自分を大きく成長させてくれたのはこの予備校生活でしたね。同じ大学へ進んだ仲間がたくさんいましたから、今でも付き合いがあるんです。なにより、苦勞をともにした仲間ですからね。  
大学は法学部。卒業後、自治省へ入省されました。  
仕事に就くという感覚はなかなか芽生えてなくて、進路を真剣に考え始めたのは3年生の頃からでした。

それまでは、休みのたびに全国を旅行していました。周遊券を使つての電車の旅。ユースホステルなどを利用して、九州とか北海道とか、友だちと回りました。旅の魅力は、いろいろな人に会うこと、見たことない景色に出会うこと、知らない土地やその歴史に出会うこと、それが新鮮で、時間さえあれば、旅をしていました。  
自治省に勤めて、山梨県の総務部長などの役職を経て、最初に「知事選」という話があったときは、どう感じられましたか。  
当時の自民党の山口武平会長と関係副会長が東京までお越しになって、知事選への出馬の要請を受けた時には、人生の決断を迫られるものになりましたね。ただ、こうまでおっしゃっていただけなら、やらなければならぬだろうと心に決めていたところはありました。  
知事の仕事というものは、山梨県の部長職を通じて見てきて、やりがいのあることはよくわかっていました。自分の地元でもありますから、思い切つて決断しました。  
ご家族の反応は、いかがでしたか。

女房には相談をしてはいなかったんです。車の中から携帯電話で、「自治省に」辞表を出すから」と伝えました。「私は、ついていくしかないですから」と承諾してくれました。  
先に述べたように、父はあまり賛成ではなかったんですよ。父は公務員として県や公共の仕事をすることが大賛成でした。「弁護士や会計士になるよりは、公務員として公の仕事をするなさい」というのは、父が買して私に期待していたことでしたから。でも、政治家になるといって、父も不安だったでしょう。反対しながらも、選挙戦になると、父は、私の知らないところで、教え子などに「息子を頼む」と電話をしてくれていたようです。  
全国の都道府県知事としては、最多選の知事となりました。  
今日は、人口減少時代、地域間競争の時代。このなかで茨城県が競争に負けないで、他の県より元気な「茨城に住んでいてよかったな」と県民が誇れるような県にするために、これまでの16年間精一杯いろいろな種をまいてきましたから、5期目はいかにその花を咲かせるか、その段階に来たと思つています。

日本が世界のなかである程度の位置にいて、国民に豊かな生活を保障するために、元気な県が外貨を稼げるような活動を展開していかなければなりません。そういう、日本のこれからを支えていける有力な県のひとつだと思つています。  
県民の皆さんに喜んでいただけるような県に、そして日本の未来を支える役割を果たせるような県にしていきたいですね。



撮影：及川隆史

知事というお立場で16年にわたって県政を引つ張つてこられ、昨年9月に5期目の任期がスタートしました。先の知事選の時、「ところで、橋本さんって、どんな方なのかな」と知人のあいだで話題になりました。今日はそのあたりのお話を。お生まれは、東海村でしたね。  
ええ、毎日、魚獲りや昆虫採集など、外で遊ぶのに大忙しの子どものでしたね。知事として仕事をすることなど想像もしていませんし、それどころか、将来の夢など考える間もないくらい、遊びで忙しかつたですよ(笑)。  
今の姿からは想像もつかないでしょうが、小学生の頃は、背が高いほうで、駆け足には自信があつたんです。小学校6年間のなかで、運動会

リレーもほとんどトップでした。東京大学のご出身ですが、やはり、子どもの頃から勉強のほうも...。  
子どもたちの見本にならないかもしれませんが、あまり勉強をしていないという記憶がないんですよ。小学生の時は、漫画もほんとのものは読んでいました。中学の時は、私立(茨城中学校)に電車で通つていたのですが、終業時に簡単なテストがあつたんです。終わつた順に帰つていいよ、と先生が言うので、早く電車に乗りたいたいのだから、夢中で問題を解いて、ささっと提出して下校するんです。集中して勉強したついでに、ええかどうかわかりませんが、そんな記憶しかありません。勉強に関しては、むしろ、担任の先

生の人柄が大好きで、だから学校が楽しかつた。今でもお付き合いさせていたでいて、よく一緒にお酒を飲んだりしていますよ。  
子どもの頃の出会いが今も生きていくというのは素敵ですね。  
6年生のときの担任の先生もエネルギーギッシュな方でした。この間の知事選挙でも、ふんどの代わり、このベルトを締めて頑張り、ベルトを贈つてくれました。  
小さな小学校だったので、みんな家族みたいなものでしたね。90人くらいで2クラス編成。同級生の親御さんはみんな私を知つていて、私の母も私の同級生のほとんどを知つていました。そういう時代です。煩わしいということではなくて、「何となく見てるよ」という感覚というか、みんなそういう環境を作つてくれているものがありました。あの頃の環境はとても恵まれていたと思つきますね。  
ご両親はどんな方ですか。  
父は学校の教師で、とても堅い人でした。頑固でしたよ(笑)。100歳になりましたが、今も元気です。母は社交的で、PTAの活動や地域の婦人会の活動、自分で仕事を立ち上げたり、非常に人付き合いが上手な人でした。数年前に他界しましたが、今でもいろいろなところで「お母様とはね...」と声をかけられることが多いですよ。  
両親ともに、無償の愛といひましようか、家族というものを、どんなことがあろうと第一に考えているようなところがありませんか。それくらい、家族は温かい場所でした。  
私などは、もう少しそういう父や